

[6月 外来医師一覧表]

新/新規患者 再/再来患者

診療科		月	火	水	木	金	
整形外科(要予約)	新	安藤 卓(第1・2・3・4週) 荒木 崇士(第5週)	立石 慶和	大野 貴史	上川 将史	唐田 宗一郎(第1・3・5週) 荒木 崇士(第2・4週)	
	再	安樂 喜久	上川 将史(第1・3・5週) 唐田 宗一郎(第2・4週)	荒木 崇士(第1・3週) 安藤 卓(第2・4・5週)	的場 啓五(第1・3・5週) 中瀬 啓太(第2・4週)	立石 慶和(第1・3・5週) 大野 貴史(第2・4週)	
腎臓科	新・再	—	神吉 智子	江口 剛人	板井 陽平	早田 学	
【透析シャント専門外来】	新・再	副島 一晃	—	—	—	—	
ロボット 専門外来	前立腺・腎	新・再	渡邊 紳一郎	福井 秀幸	占部 裕巳	三上 洋 渡邊 紳一郎(第2週)	富永 成一郎
	呼吸器外科	新・再	吉岡 正一	岩谷 和法	—	—	—
	総合腫瘍科	新・再	坂本 快郎	—	高橋 英徳	—	田中 秀幸
	心血管外科	新・再	—	—	—	押富 隆	—
カテーテル・ 低侵襲血管内 治療外来	心血管外科	新・再	池田 理	—	—	—	—
	循環器内科	新・再	—	—	—	—	田口 英詞
	腎臓内科	新・再	—	—	—	—	早田 学
	脳神経外科	新・再	—	—	—	—	加治 正知
	脳神経内科	新・再	—	—	長尾 洋一郎	—	—
消化器内科	新・再	工藤 康一	—	—	—	—	
泌尿器科(要予約)	新・再	渡邊 紳一郎 尾崎 陽二郎(第1・3・5週) 石崎 宏志(第2・4週)	福井 秀幸	占部 裕巳	三上 洋	富永 成一郎	
【がん薬物療法】	新・再	—	—	—	—	福井 秀幸	
心血管外科	新・再	—	上杉 英之	出田 一郎	押富 隆	佐々 利明(第1・3・5週) 高志 賢太郎(第2・4週)	
【下肢静脈瘤専門外来】	新・再	—	担当医	—	—	—	
循環器内科	新・再	坂本 知浩 劔 卓夫 井上 雅之 根岸 耕大 前田 美歌	田中 靖章 奥村 謙 由布 哲夫 豊福 尚旦(第1・3・5週) 出石 さとこ(第2・4週)	山室 恵 岡松 秀治 堀尾 英治 兒玉 和久	山田 雅大 奥村 謙 吉村 あきの 神波 裕	田口 英詞 古山 准二郎 鈴山 寛人 堀端 洋子	
	【デバイス/遠隔モニタリング外来】	再	—	—	—	—	
	【LVAD外来】	再	—	—	兒玉 和久(第2週) 岡松 秀治(第4週)	—	—
呼吸器外科	新・再	吉岡 正一	岩谷 和法	—	隈元 清仁	—	
呼吸器内科 <small>※全医師が「COPD専門診療」に 対応しております</small>	新・再	一門 和哉 関戸 祐子 阿南 圭祐	保田 祐子 神宮 直樹 西山 健太	一門 和哉 村中 裕之 中村 和憲	保田 祐子 川村 宏大	坂田 能彦 仁田 辰哉 久永 純平	
【がん薬物療法】	新・再	坂田 能彦	坂田 能彦	川村 宏大 神宮 直樹(第1・2・4週)	神宮 直樹	—	
糖尿病内科	新・再	松尾 靖人	星乃 明彦	松尾 靖人	星乃 明彦	星乃 明彦(第1・3・5週)	
脳神経外科 <small>※全医師が「未破裂脳動脈瘤 専門診療」に対応しております</small>	新・再	天達 俊博	山城 重雄	山村 理仁	上田 隆太	加治 正知	
【ガンマナイフ外来】	—	後藤 智明	後藤 智明	後藤 智明	後藤 智明	後藤 智明	
脳神経内科	新・再	橋本 洋一郎	米原 敏郎	長尾 洋一郎	橋本 洋一郎	永沼 雅基	
外科	新・再	藏元 一崇	泉 大輔 稲尾 瞳子	辛島 龍一	富安 真二郎 伊東山 瑠美	今井 克憲	
消化器内科(要予約)	新・再	工藤 康一 古川 歩生 吉田 健一	山邊 聡 近澤 秀人 上原 正義	須古 信一郎 上川 健太郎 AM:吉田 健一 PM:江口 洋之	浦田 淳資 近澤 秀人 糸島 尚	上原 正義 前田 大樹 AM:工藤 康一 PM:江口 洋之	
総合腫瘍科	がん薬物療法	新・再	森北 辰馬 三井 士和 川崎 麗苗 高橋 英徳	小田 尚伸 森北 辰馬 三井 士和	小田 尚伸 森北 辰馬 三井 士和	森北 辰馬 川崎 麗苗 坂本 快郎	小田 尚伸 三井 士和 川崎 麗苗 濱崎 俊輔
	放射線治療	—	松山 圭矢(新患)	松山 圭矢(再診)	松山 圭矢(新患)	松山 圭矢(再診)	松山 圭矢(新患)
	がんゲノム外来	新・再	—	—	—	小田 尚伸	—
	遺伝カウンセリング	新・再	—	佐々木 瑠美	—	—	—
	緩和ケア外来	新・再	金光 敬一郎	金光 敬一郎	金光 敬一郎	金光 敬一郎	金光 敬一郎
	精神腫瘍外来	新・再	窪 文彦	窪 文彦	—	窪 文彦	窪 文彦
総合腫瘍外来	新・再	坂本 快郎	—	高橋 英徳	—	田中 秀幸	

※担当医師は月により変更することがあります。ご了承ください。

[サイクル]

済生会熊本病院 連携広報誌

vol. 70

2022.May

saikuru

明日へつながる、より確かな医療連携をめざして。



Baton





Baton

済生会熊本病院 部長代行就任のごあいさつ

富安 真二郎



shinjiro tomiyasu

外科部長代行 就任のごあいさつ

この度、2022年4月1日より外科部長代行に就任いたしました富安真二郎と申します。

近年のがん医療の進歩や外科手術の発展はめざましく、低侵襲手術が主流となっています。先代の先生が築かれてきた歴史と伝統を発展させ、当院の特徴である救急外科疾患の大役を行いつつ、がん治療においては、ロボット支援下手術の肝胆膵疾患への拡大や、食道癌治療など新しいことに挑戦していきたいと考えています。

それと同時に、地に足のついた着実な医療を心がけ、地域医療の一翼を担う皆さまと一緒に、がん治療の次の時代を築いていければと思っています。特に患者さんをご紹介いただく場合には簡便で迅速な対応を行う体制に変更しており、「紹介してよかった」と思っただけのように努力してまいります。また、外科をとりまく労働環境は非常に厳しいものがあります。そのため、外科スタッフの働きやすい環境を構築し、ワーク・ライフ・バランスを保ち、チーム一丸となった業務運営を行っていきたく思います。

また、他科やメディカルスタッフの協力なしには外科診療は成り立た

ないので、各部署との連携強化に努め、コミュニケーションを活性化してチーム医療を実践していきたく思います。何卒よろしく願いいたします。

上原 正義



masayoshi uehara

消化器内科部長代行 就任のごあいさつ

初夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび私こと今村部長の後任として消化器内科部長代行に就任することになりました。身にあまる重責ではありますが、一意専心、消化器内科の発展に全力を尽くし、連携医療機関の皆様のご期待に添うよう努力いたす所存でございます。まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。消化管領域の診断治療を専門分野として、のべ25年間当院に在籍してきました。これまでの経験を活かして、地域医療に寄与していきたいと思

います。次に、今後の当科の方向性について、3つの視点で述べさせていただきます。まずは、緊急医療についてです。消化器内科当直体制を維持して、緊急処置に対する医師の技術養成体制を充実させたいと思

います。第2にがん治療についてですが、ESD等の内視鏡治療枠を増やし、

早期の低侵襲治療を目指したいと思

います。また、消化器外科、総合腫瘍科と密な連携を行い、患者視点での集学的がん治療を目指したいと思

星乃 明彦



akihiko hoshino

包括診療科部長代行 就任のごあいさつ

時下、皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症流行にあつて、ご苦勞も多いかと拝察しております。また平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、前任者の退職に伴い、包括診療科部長代行を拝命いたしました。なお糖尿病内科につきましては引き続き兼任させていただき所存です。

包括診療科は、副島秀久県支部長、園田幸生前部長のご指導のもと、2017年より病院総合医として病棟常駐し、各診療科医師と医療スタッフの業務を補い合いながら、診療にあたっております。

当院は、高度急性期病院として、専門分野の診療を行っておりますが、入院される方は、高齢で、多疾患、多剤服薬、高介護度であり、地域包括ケアのなかで、当院退院後のアウトリーチ、多職種共同のタスクシェアは欠かせません。そのため、病院総合医に必要なスキルのうち、“Integration(包括)”すなわち「まとめ役」として、包括診療科が担う役割が増えています。

包括診療科スタッフは、ベテラン、育児中の医師を中心に、本年度は私を含めて5名です。経験や専門性を生かし、ワークライフバランスをとりながら、各々のスタイルで診療できる環境作りをしています。包括診療科を通して、地域・病院の発展に貢献してまいりる所存ですので、これまでと同様に皆さまのご協力・ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

松尾 靖人



yasuto matsuo

栄養部部長代行 就任のごあいさつ

この度、今村治男先生のご退職に伴い栄養部部長代行を拝命することになりました松尾靖人です。簡単ではございますが私と栄養部の関わりを記し挨拶と代えさせていただきます。

私は2004年に当院へ着任し、糖尿病専門医として診療を行なつてき

ました。基本的には食べ過ぎないように指導を行っていた私でしたが、2009年に栄養管理・NST委員会へ配属され、NST活動を通じて栄養の重要性を実感するようになりました。

当時の栄養部は他の多くの病院と同じく、栄養食事指導主体の業務を行なっていましたが、大きな転機となったのは2014年に西徹先生が立ち上げられた臨床栄養士創出プロジェクトでした。私はその一員として、管理栄養士が病棟に常駐し主体的な栄養管理を行うことを目標に議論を重ねました。その際、管理栄養士への臨床教育が最重要課題となり、定期的な臨床レクチャーや症例に関する相談を受けることで栄養部と深く関わりを持つようになりました。

2019年に臨床栄養室長、2021年に栄養部副部長を経て現在に至っています。当初は8名だった管理栄養士も現在では20名を超え大きく発展している最中です。

栄養状態が悪化した患者に対する適切な栄養管理は治療成績に直結し、連携医療機関へ転院後の予後にも強い関係があると考え

ます。これからも、栄養部全員で考えた「早期から質の高い栄養管理を行い治療に貢献する」という理念のもとに、多職種との連携を図りながら精進していきたいと思

